

Vol. **90**
発行日
2005年
10/17

(〒811-3431) 宗像市田熊4-4-32 代表/辻洋子(つじようこ)
Email:munakata@fnet.gr.jp 事務局長/杉下啓恵(すぎしたあきえ)

宗像市田熊4-4-32 TEL:0942-22-1111 FAX:0942-22-1112

おなかた



こが ちくさ ●代理人/古賀千種 (宗像市市議会議員)
しんや よしこ ●代理人/新谷良子 (宗像市市議会議員)

紙おむつ

リサイクル工場見学記

今年4月、大牟田市のエコタウン内に紙おむつのリサイクル工場が全国初稼働開始しました。紙おむつ・緩衝トレイなどに生まれ変わり、また低質・汚泥での綿花の栽培実験もされています。

紙おむつの生産量は2004年、乳児用6億7千枚、大人用34億枚と前年比で14%増となっています。今後30年は増え続けると予測されています。

おむつはどうしようもなく汚いものというイメージがあるが、全体の3割くらいしか汚れておらず、上質のプルプ・ビニール・ポリマーとシンプルな原料である水の浮力の違いを利用して分離することが可能です。

紙おむつか布おむつかの選択について、特に高齢者の場合は布おむつには戻れない現状があります。焼却する以外ないとされていた、紙おむつが、試行錯誤しながら循環への道が開かれました。

古賀千種の一般質問



紙オムツのリサイクルに取り組みませんか —紙おむつのリサイクルが可能になった?!—

乳幼児用の紙おむつに加えて高齢者の介護用の紙おむつの利用も増大し、環境保護の立場からリサイクルの取り組みが求められている。今年4月から全国初の紙おむつリサイクル工場が大牟田市で稼働している。紙おむつのリサイクルは森林保護にもなり、ごみ焼却の減少はCO2の減少にもつながる。

いままではリサイクル不可能と考えられていた紙おむつであるが、今後の取り組みを期待して質問した。

- このリサイクルに宗像市でも取り組んではいかがか？
- 現在は医療現場からの受け入れが主だが家庭での使用済み紙オムツを分別収集してリサイクルできるように、構造改革特区申請等で対処できないか？

◆市の回答
宗像市でも家庭系ごみの4.4%程度が紙おむつだが、リサイクルには収集のコスト等の問題がある。特区にすることが可能であれば期待もできる。まずはリサイクル工場の見学を実現したい。